

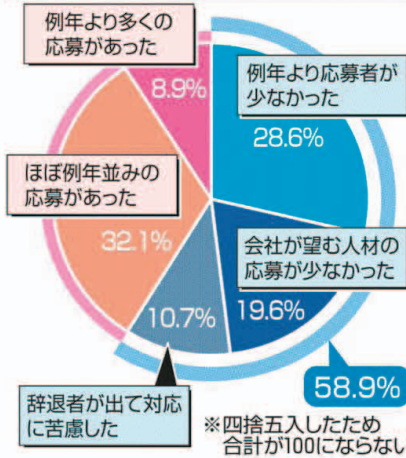
| | | |
|---|---|----|
| 年 | 組 | 名前 |
|---|---|----|

3年以内の 離職率16%

県経営者協会が初調査

県経営者協会が会員企業の新規採用に関する調査結果をまとめた。2012年春の採用者のうち今年3月末までに離職した割合は16%で、大分労働局の全県的な調査(11年春採用者対象)

今春の大卒・大学院修了の採用活動—— 応募者の人数や質について



より低い水準にとどまった。今春の採用活動に関して「例年より応募者が少ない」などで結果に満足していない企業は過半数を超え、同協会は人手不足感がうかがえると分析している。

調査は県の事業の一環で初めて実施した。190社にアンケートを送付し85社から回答を得た。協会は結果を参考に新卒者の定着を促す対策をまとめる予定。

回答企業で就職後3年以内の離職率は大卒・大学院修了で20・3%、高卒で10・9%。大分労働局の14年

3月末の調査(大卒41・4%、高卒37・7%)をいずれも下回った。協会は、離職率の高い傾向がある10人以下の小規模事業者が会員に少ないことに加え「研修の充実など職場定着のための取り組みが一定の成果を挙げている」とみている。

退職理由は「職場の人間関係」が24・6%で最も多く、「家庭の事情(結婚、介護など)」(21・5%)、「仕事がつつい」(18・5%)が続いた。

採用計画と実績の調査では、今春の大卒・大学院修了の採用について「応募者の人数や質」で「応募者が少ない」「望む人材の応募が少ない」「辞退者が出て苦慮した」などとする企業が計58・9%に達した。都市部での景気回復を受け大企業が採用枠を増やしていることや、若者人口が減っていることが要因と考えられるという。

協会の離職対策を話し合う検討会議では委員から

「全国的に人口減少が進むことを考えると、離職しても県内の別の企業で再就職し地域内人口を減らさないような仕組みが必要ではないか」といった意見が出たという。

県経営者協会が会員企業の新規採用に関する調査結果をまとめました。

①今回の調査で、3年以内の離職率は高卒で何%だったでしょう。

.....

.....

.....

.....

(2015年8月25日朝刊5面)

②採用活動の結果に満足していない企業が過半数を超えた要因は、何だと考えられますか。

.....

.....

.....

.....

③離職率を抑えるため、就職する側の心構えとして、どのようなことが大切だと思いますか。

.....

.....

.....

.....